

急変した世界

南後ゼミ生：いつから NPO を作ろうと思われたのですか？

篠原：脳卒中になり、入院中から今の仕事ができなくなるとわかっていました。先輩と一緒に、入院中に NPO 設立の準備を始め問題点の整理をしました。コンセプトは一級建築士の眼で見た車椅子での不自由な世界です。

南後ゼミ生：どんな活動をしていたのですか？

篠原：電動車椅子でよく活動する人は車椅子のバッテリーが 1 日持ちません。バッテリーの貸し出しや充電サービスなどをしていました。コロナで 3 年ほど活動できず、車椅子ユーザーは基礎疾患を持つ人が多く開催しようとしても常に危険が付き纏うためなかなか開催できませんでした。

南後ゼミ生：現在はどんな活動をしているのですか？

篠原：YouTube に車椅子での移動の動画・画像をアップロードする活動をする団体とコラボしたり、ホテルのバリアフリーフリールーム造りの提案大学生の卒論でバリアフリー住宅の設計のお手伝い、バリアフリーマップをつくる関連 NPO とコラボして一緒に何かできないかと思っています。

変わりつつある東京

南後ゼミ生：バリアフリー、ユニバーサルデザイン (UD) の設備は使い手のことを考えていると感じますか？

篠原：マニュアルに基本寸法があり、数字さえ守ればよいと思っていました。当事者になって、車椅子ってなんて不自由なんだろうと感じ、バリアフリーや UD を検証しようと思うようになり、基本的な UD に関する勉強や認定試験や勉強会に参加し知識を身につけました。

南後ゼミ生：「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」では段差解消などが成果として挙げられていますが、オリンピックの前後で東京のバリアフリーは進歩

したと思いますか？

篠原：2019年は、色々な企業から車椅子利用者・視覚障がい者・聴覚障がい者の三者を集めて意見を聞く会が行われていましたが、コロナでなくなってしまいました。それらが続いていればよかったです。自分が車椅子生活を始める前がどれくらい悪かったかはわかりませんが、駅では階段昇降機がたくさんあったことを覚えています。だんだんエレベーターになりました。地下鉄のサイン計画や使いやすいアプリの計画に携わったこともあり、若干の変化はあります。

まず、理解してほしい

南後ゼミ生：車椅子の普段の生活で思うことはありますか？

まず飲食店、コンビニ等のホームページに車椅子で入ることが可能か誰でもトイレがどこの支店には整備されているかの情報が欲しいです、次はクリニックのホームページにも同じ情報が欲しいです。

篠原：車椅子の人は食べるのが好きな人も多いけれど、少しでも段差があると難しく、路面店はほとんど入れません。入れる店が少しでも増えればいいなど。世田谷区にUD サポーターという制度があります。最近、下北沢が新しくなりましたが、そこでUDを広める活動をしています。

南後ゼミ生：日本でバリアフリー、UDがより浸透して誰もが生きやすくなるためには、どうすればよいと思いますか？

篠原：7年間NPOをやってきて、何かを作るときは意外と協力すると言ってはくれるのですが、理解してくれないし、手伝ってもくれません。志がある人がいれば、一緒にやっていけます。車椅子の人で、色々やりたいと思っている人はいっぱいいますが、自分ではできない。コップも持てない。健常者NPOを辞めようとも思ったが、名前があるとアプローチしてくれる。月に2、3件は皆さんからのような依頼があります。

(2022年9月29日、後樂園駅)